英語科　授業づくり講座　No. 1

【教材研究会】5月28日 南国市立香南中学校

発行
令和元年6月10日
中部教育事務所

今後の予定
6月11日（火）13:10～16:45
授業研究会

授業者
笠井由加里教諭、北　裕子教諭、
豊永信子主幹教諭、
ALT チェリッシュ・ワーデン

単　元
「いろいろなトピックスについて自己紹介をしよう」Program3 ウッド先生がやってきた
Sunshine English Course 1

単元計画
（全９時間）

第１次　目標の設定⇒基礎的な知識･技能の習得
単元ゴールを理解し、学習の概要をつかむ。
第２次　目標実現のための言語活動⇒言語活動の見直し
第３次　目標実現のための言語活動⇒振り返り
パフォーマンステスト

育成したい資質・能力
書くこと　ア
関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

CAN-DO リスト形式の学習到達目標
関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。

中心となる言語活動
・自分自身について、趣味や好きなこと、嫌いなこと、日常的に行っていることなどについて、ペアやグループで簡単な語句や文を用いて口頭で伝え合う活動。
・話した内容を語順や語句を意識しながら、正確に書く活動。

提案授業のポイント

視点 **1**　技能統合型の言語活動を通して、書く能力を高められる単元計画になっているか。

視点 **2**　見方･考え方を働かせる授業づくりとなっているか。

香南中は技能統合型で話題やトピックを変えて繰り返し言語活動を設定していることが素晴らしい。
改善のポイントは目的･場面･状況。

山田誠志教科調査官より

①見方・考え方を成長させる　⇔　目的･場面･状況等の設定が不可欠

『場面をクリアにし、相手が誰かクリアにする。どこに住んでいるのか、どんなことを知りたいのか等、生徒にイメージがわく設定を。目的･場面･状況等がクリアになればなるほど子供は考える。思考･判断･表現力等が育成される。』

★学力調査のような問題に対応できる力＝言語活動を行うときに、目的･場面･状況を与える！

②単元の中で繰り返し言語活動を設定する

『準備してずっと練習すればそのパフォーマンスはできるようになる。育てたいのは資質・能力の育成。実際の言語活動を通して育成していくことが必要。』

③子供が言えずに困っていることへの対応

パラフレーズさせる。母語レベルから自分の英語レベルまで下げて、既習表現による言い換えを行う。先生が答えを教えるのではなく、子供が考えること。子供達が自分の伝えたいことを言い換えようと繰り返し考えることが大切。

★ラウンド１とラウンド２の間の指導は文部科学省で**動画**も作っている。
是非参考にしてほしい。**「山田誠志　動画」**で検索を。

アキュラシーについて

これをやれば高まるという指導はない。共通しているのは、**言語活動の中でたくさん話させて、たくさん書かせている。アキュラシーは量の後にやってくる。間違いがあっても書かせているとだんだんとアキュラシーが追いついてくる。**ただし、**途中で指導は必要**。子供達の書きたい、やりたい気持ちをそがずにアキュラシーを育てること。

帰納的な指導を

小学生は明示的な知識を与えられてルールに則って学んではいない。場面で使わせて気付かせている。指導方法を同じに。

参観者より

➢『山田調査官の「目的･場面･状況がクリアになればなるほど、子供達は見方・考え方を働かせ、思考･判断･表現力等が身に付く」という言葉がストンと落ちました。』

➢『小中連携という観点から授業を見つめ直すことが私にとっても大きな学びでした。文法指導についても小学校との指導統一を図ることで改善でき、今後の実践に積極的に取り入れるようにしていきたいです。』

➢『単元計画の大切さをつくづく感じました。１時間の授業の内容のみを重視して計画をしがちであったため、資質能力を起点とした授業をどう作って生徒の力を伸ばすのか悩んでいます。』